

幼保連携型認定こども園園児指導要録（学籍等に関する記録）

区分	年度		年度		年度		年度	
	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度
学 級								
整理番号								

園 児	ふりがな 氏 名				性 別	
	平成 年 月 日生					
	現住所					
保護者	ふりがな 氏 名					
	現住所					
入 園	平成 年 月 日	入園前の 状 況				
転 入 園	平成 年 月 日					
転・退園	平成 年 月 日	進学・ 就学先等				
修 了	平成 年 月 日					
園 名 及び所在地						
年度及び入園（転入園） ・進級時等の園児の年齢	平成 年度 歳 か月					
園 長 氏名 印						
担 当 者 氏名 印						
年度及び入園（転入園） ・進級時等の園児の年齢	平成 年度 歳 か月					
園 長 氏名 印						
学級担任者 氏名 印						

幼保連携型認定こども園園児指導要録(指導等に関する記録)

ふりがな		性別	指導の重点等	平成	年度	平成	年度	平成	年度	
氏名				(学年の重点)			(学年の重点)			(学年の重点)
平成 年 月 日生				(個人の重点)			(個人の重点)			(個人の重点)
ねらい (発達を捉える視点)			指導上参考となる事項							
健康	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。									
	幼保連携型認定こども園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。									
人間関係	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。									
	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。									
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。									
	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育教諭等や友達と心を通わせる。									
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。									
	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。			(特に配慮すべき事項)			(特に配慮すべき事項)			(特に配慮すべき事項)
出欠状況	年度	年度								
	教育日数									
	出席日数									

【満3歳未満の園児に関する記録】

園児の育	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度
	るちに関する事項							

学年の重点：年度当初に、教育課程に基づき長期の見通しとして設定したものを記入
 個人の重点：1年間を振り返って、当該園児の指導について特に重視してきた点を記入
 指導上参考となる事項：
 (1)次の事項について記入
 ①1年間の指導の過程と園児の発達の姿について以下の事項を踏まえ記入すること。
 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された養護に関する事項を踏まえ、第2章第3の「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該園児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの。その際、他の園児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。
 ・園生活を通して全体的、総合的に捉えた園児の発達の姿。
 ②次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。
 (2)「特に配慮すべき事項」には、園児の健康の状況等、指導上特記すべき事項がある場合に記入
 園児の育ちに関する事項：当該園児の、次の年度の指導に特に必要と考えられる育ちに関する事項や配慮事項、健康の状況等の留意事項等について記入

幼保連携型認定こども園園児指導要録(最終学年の指導に関する記録)

(様式の参考例)

ふりがな	平成 年度				<p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</p> <p>「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第2章に示すねらい及び内容に基づいて、各園で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力が育まれている園児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ園児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特성에応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての園児に同じように見られるものではないことに留意すること。</p>
	氏名	(学年の重点)			
性別	平成 年 月 日生	(個人の重点)			
ねらい (発達を捉える視点)					
健康	指導の重点等				
	健康な心と体				
	自立心				
人間関係	協同性				
	道徳性・規範意識の芽生え				
	社会生活との関わり				
環境	思考力の芽生え				
	自然との関わり・生命尊重				
	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚				
言葉	言葉による伝え合い				
	豊かな感性と表現				
	(特に配慮すべき事項)				
出欠状況	年度	年度	年度		
	教育日数				
	出席日数				

学年の重点：年度当初に、教育課程に基づき長期の見通しとして設定したものを記入
 個人の重点：1年間を振り返って、当該園児の指導について特に重視してきた点を記入
 指導上参考となる事項：

(1) 次の事項について記入

- 1年間の指導の過程と園児の発達の姿について以下の事項を踏まえ記入すること。
 - 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された養護に関する事項を踏まえ、第2章第3の「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該園児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの。
 - その際、他の園児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。
 - 園生活を通して全体的、総合的に捉えた園児の発達の姿。
- 次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。
- 最終年度の記入に当たっては、特に小学校等における児童の指導に生かされるよう、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第1章総則に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して園児に育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿を分かりやすく記入するように留意すること。その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことに留意し、項目別に園児の育ちつつある姿を記入するのではなく、全体的、総合的に捉えて記入すること。

(2) 「特に配慮すべき事項」には、園児の健康の状況等、指導上特記すべき事項がある場合に記入すること。